

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先:虎ノ門事務室[メールまたは電話])

※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名		科目コード	単位数	開講期
ソーシャルファシリテーション特論		Z 222	1単位	4学期
Facilitation for Social Change				
科目分野		課程領域		
経済学・グローバルビジネス		ビジネスマネジメント専門科目		
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー		
野村 恭彦 村上 敏也	-	メールにて随時		

関連している科目(履修推奨科目)

イノベーションファシリテーション特論1、2	チェンジマネジメント特論1、2
-----------------------	-----------------

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

企業・行政・NPOのセクターの壁を超えた多様なステークホルダー(利害関係者)が集い、地域・社会の課題解決をめざす「革新的な協働の場」を創出し運営していくために必要な知見の獲得と資質を学ぶ。本科目では、自分自身が社会イノベーションを起こすための技術だけでなく、オープンイノベーションの生態系をデザインし、多数のイノベーションが群として生まれるプログラムを推進できる人財を育てる。教授法の特徴は、2つ。一つは、複雑な社会課題に対する場づくりとファシリテーションの習得に、ケースメソッド教授法を用いることである。渋谷区や広島県でのクロスセクターでの社会課題解決の場の具体的なケースを用いて、社会イノベーションを実現するために必要な個人や組織の要件について議論する。加えて、協創プロジェクト実践者である外部講師を招いて徹底インタビューし、自らの手でケース化することで、複雑なステークホルダーの間の協創の場のデザインとファシリテーションの要学びをさらに深める。これらのケース討議と作成を通して、イノベーションに必要な5つの資質、すなわち、分野・問題・アイデアを「関連付ける力」、本質・因果・構造を探り出す「質問する力」、回りの世界を注意深く「観察する力」、広く多様な人脈と「ネットワークする力」、アイデアを試行し経験に挑む「実験する力」を獲得する。

到達(修得)目標

協創の場を自ら企画し、人とお金を集め、成果をあげるところまでファシリテーションするための知見を得ること。

受講対象者

企業の経営企画部門、マーケティング部門、R&D部門、新事業部門など、オープンイノベーションに関わる担当者。
自治体の経営企画部門、市民協働部門など、企業と民間の協働を促進する部門の担当者。
企業横断のオープンイノベーションプラットフォームを運営するプロデューサー。
コワーキングスペースなど、協働の場づくりが求められる場を運営するプロデューサー。

履修上の注意事項やアドバイス

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域(Y軸)		ヒューマンパワー(Z軸)		思考プロセス(X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z2: 独創力		X2: 構想	
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力		X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力	○	X5: 変革	○
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力	○	X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム

イベント / ケース		教育技法	マテリアル / ツール
1	広島県主催「イノベーション道場(TIES)」のケース	ケースメソッド教授法	ケースの配布
2	渋谷区協賛「渋谷をつなげる30人」のケース	ケースメソッド教授法	ケースの配布
3	外部講師講演(協創プロジェクト実践者2名)	講演とインタビュー	
4	外部協創プロジェクトのケース作成	ケースライティング	
5	自ら作成したケースを使った授業実践	ケースメソッド教授方の実践	

評価の方法	
(総合評価項目と割合)	評価の要点
出席	10%
プラクティカムシート	40%
学習プロセス(クラスでの貢献度)	50%
合計	100%

毎回、事務室より出席簿を準備する。
プラクティカムシートでは授業の進捗に合わせ課題を出し、その内容を授業内にて確認し評価する。最終レポートの提出を求め、総合的に授業の理解度を確認する。

テキスト・参考図書など	備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください	
テキスト (購入が必要) ※資料を適宜、配布します	
参考図書 (購入は任意・講師推奨) 「イノベーションのDNA」クレイトン・クリステンセン他、著	
参考URL	

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	・イントロダクション:クロスセクター協創の場のデザインとファシリテーションとは ・ケース1:広島県主催「イノベーション道場(TIES)」のケース	広島のケースを読み、論点を整理してくる(宿題)	村上 野村	180分
	・ケースライティングを学ぶ イベント ケース学習実施			
3.4	・ケース2:「渋谷をつなげる30人」のケース ・「革新的な協働の場」についての深い対話 ・ケースライティング手法の振り返り	渋谷のケースを読み、論点を整理してくる(宿題)	野村 村上	180分
	イベント ケース作成、プレゼンテーション			
5.6	・協創プロジェクト実践者である外部講師(2名)の講演と質疑応答 ・外部講師への集中インタビュー ・ケースライティングの方針づくり(ケース3とケース4の作成)		野村 村上	180分
	イベント 外部講師講演、ケース作成			
7.8	・チームの作成したケースを用いた授業実施(ケース3)	協創プロジェクトのケースをチーム作成し事前提出(宿題)	村上 野村	180分
	・チームの作成したケースを用いた授業実施(ケース4) ・「クロスセクター協創の場のデザインとファシリテーション」についての振り返り イベント プレゼンテーション、ケース学習実施			

※ 講義日程は、学事ポータル上の講義日程表をご参照ください。
 ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。